

# Chichester Times : Special Tokiwa Issue

No.07-2 21 Feb. 2007

## 消火毛布

日本だと家庭には消火器がありますが、昨日から移った私のフラットには、「消火毛布」があります。この存在は知っていたような気がしますが、実際にこれと一緒に住むことを意識するのは初めてかもしれません。この手の「モノ」を見ると使ってみたくなるのはなぜなのでしょうね。キッチンにありますから、油などを使うことの多い調理中だと、炎にかけて消火するようです(当たり前か)。3番目に着衣に延焼した場合の対応が絵入りで指示してあります。これを試してみようとは思いませんが、改めて *accountability* の実際に感心します。でもやっぱり、一度は使ってみたいかな？



## 笑う

「箸が転がっても可笑しい」年頃なのは分かりますが、これ授業の合間の休み時間です。朝食はまともに摂ってきたようですが、すでに「お腹がすいた」状態です。食べながら話そうとする、食べながら笑う、と大和撫子は逞しいのです。しかし、この笑いとか食欲は緊張からの逃避でもあるようです。建物の外では個人判別用にイギリス人教師が写真入り名簿を作ったのを見て、UAEから来たばかりの学生が盛大に笑い転げていて、名簿をもった先生がキョトンとしていました。彼らもよく笑うし、いつも食べています。緊張しているのですね。日本人は白人の前で途方に暮れると笑います。*oriental mystery* とか言われるあれです。妻の死に立ち会って微笑みをもらす男を描いたロレンスの小説がありますが、笑いとか食欲は、楽しいとか空腹のみならず、緊張緩和の自己防衛なのですね。

## 天候

イギリス到着の日は曇っていた(と思う。暮れかけていたので)。翌19日の月曜日は小雨・くもり。20日は雨がちでした。まあ、雨ぐらいならこの国では驚くこともありませんが、21日水曜日は驚いたことに、朝から晴れています。こんなに太陽を見られるのは、やはり、驚きです。今年はずっと暖かいそうです。確かにこちらに来てから(雨が降っても、曇りでも)暖かいです。従って、こちらのみなさまは薄着です。半袖シャツがふつうです!中にはノースリーブのご婦人もいます。ダウンなど持ち歩いているのは、年寄り日本人だけかもしれません。ちなみに齢を重ねると一般に感覚が鈍くなりますが、寒さに対する感覚だけは研ぎ澄まされ鋭敏になります。本日カレッジのカフェテリアにもノースリーブの女性職員がいました。しかも、この彼女は腕に入れ墨をし、何と、背中にも入れ墨です。なぜそうと分かるかという、この彼女は、例のスペアタイア状態で、スラックスとシャツの間隔が随分あるのです。腕の入れ墨に見とれていたら、目の前の席に向こう向きに座りましたから、背中中のタトゥーが露わなのです。ここは国立のカレッジですが、職員の採用にこれほど差別がないのは、うらやましい限りです。別に、私もスペアタイア・ファッションを身にまといたいとか、入れ墨をしたいというわけではありませんけれども。いつの日か、姫が丘キャンパスにもスペアタイアの入れ墨姿は現れるのでしょうか?

(文責: 吉川)